2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、これより2番浦泰孝の一般質問を始めさせていただきます。

先月17日に、新武雄温泉駅の開業式及び高架の切りかえ式が盛大にとり行われました。高架をさっそうと走る電車を見まして、現在の本当に厳しい財政状況の中にも一筋の光、武雄市の明るい未来や希望を感じ取れたのは私だけではなかったと思っております。

構想30年、着工からも10年という武雄市にとっては大変大きな事業だったわけですが、地権者の方を初めとします地元の皆様を初め、歴代の市長、執行部、国や県、JR、歴代の議員の皆さんなど本当に多くの方の力の結集、御尽力によるものだと思っております。

もっとも人には日々の生活があり、夢や希望だけでは食べてはいけません。病気や老後の心配や、それどころか現在の原油価格の高騰などにより、あすの生活にさえ国民の多くが不安を抱えております。それらの不安を少しでも取り除き安心して暮らせる社会を構築し、未来に夢や希望を与える使命が行政と政治家、私たち政治家に課されていると思っております。

また、話は変わりますが、戦後六十数年がたち、今ここで日本の教育を改めて振り返り、そして、今後の未来に向けて時代に即した、しかも日本人特有の思いやりに満ちたものであってほしいと私個人は願っております。

今回の一般質問は、未来の日本を担っていく子供たちの教育環境についてを中心に、ほか、残すべき資源を守るための景観条例について、そして、同じく今後の未来を創造していくツールとして残し、つなげたい新幹線について進めさせていただきます。

文部科学省は2月15日、学習内容などを示した小・中学校の学習指導要領改訂案を公表しております。今回の改訂に至るまでの背景、歴史を簡単に振り返ってみます。

1947年に試案として示されて以降、約10年ごとに改訂をされている模様です。89年の改訂で入学式、卒業式での日の丸の掲揚や君が代斉唱の指導を義務化、その後、詰め込み教育への反省から、現行学習指導要領はゆとり教育を掲げて98年から99年に改訂されましたが、今回は学力低下を招いたと批判され、今回の全面的な見直しとなっていると聞き及んでおります。その主な骨子として、生きる力の理念を継承し、それを支える確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視、知的活動のコミュニケーションの基盤となる言語活動を充実、伝統や文化に関する教育を充実、道徳を教科化はしないが、学校全体を通して教育を行うとなっております。

まず最初に、この改訂の背景となっております学力の低下について、佐賀県、具体的にわかれば、武雄市の状況と教育長の所見をお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

お答えいたします。

今お話にありましたように、学習指導要領の案が出されましたこの時期に教育の問題について御質問いただくことをありがたく思っております。

学力向上に向けた取り組みということで、6点ほど申し上げたいと思います。

学力調査等がございましたけれども、武雄市の子供たちの小学校6年生、中学校3年生の現状でございますが、基礎的な知識や理解、いわゆるA領域とっておりますが、この調査につきましても、ほぼ全国並み、あるいはそれ以上の成績をとっております。ただ、B領域の活用に関する部分であります。これについては同等か若干下回るという学校が多くなっておりまして、子供たちのいわば知識、理解はあるけれども、それを生かして学習、そのあたりが望まれているところであります。

ただ、ほかにも県の調査とか、武雄市が行っている調査というのがあるわけですが、それを見ますと、やはりかなり学年の差がありまして、この1回を見て、はい、この学校はこういう面が努力しないとイケませんねというような結論にはならないというふうに思っております。来年度も4月22日に予定されておりますので、経過を追って把握していく必要があるかというふうに思っております。その中で、先ほどの御質問にありましたように、言語の力をつけると、国語力の大事さは、もうこれはやはりどの教科の調査を見ましても基盤となるものとして強力に推し進めていきたいということを考えております。

例えば今、2階のホールで武雄小学校の子供たちが楼門朝市を題材にして学習したのを張ってございますが、やはり言葉の力、これを生かして総合的な学習の中で質問をしたり、アンケートをしたり、まとめたり、調べたことをもとにまとめると、こういう活用していく力というのが劣っているわけでありまして、各学校でこういうふうな創造的な取り組みをしていただいているということでございます。今後もそういう面をお願いをしていきたいというふうに思っております。

2つ目ですけれども、今申しましたように、各学校で非常に創意ある取り組みをしていただいておりますので、これを強力に支援していきたいというふうに思っております。

3つ目は、やはり先生方の力を高めていただきたいと思っておりますので、予算化もしておりますけれども、国語教育に関するセミナー形式でもできたらというふうに考えて進めようとしております。

4つ目としましては、今パソコンの導入を進めておりますので、これもフルに活用していきたいというふうに思っております。

それから、5番目、6番目は、家庭との連携ということですが、どうしても読書をする子がやはり学習の成績も高い数値を示していると。いわば当然かもしれません。あるいはテレビやゲームとの関係、寝る時間、起床時間、就寝時間の関係、そのあたりを考えます

と、特に小・中学校においては家庭との連携がいかにうまくできていくかということが非常に大事だと思いますので、学力向上を支えるものとして、学校の努力、そして家庭との協力等を特に進めていければというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

御答弁をいただきまして、武雄市、佐賀県における学力の低下は極端なものでないということで一安心をしたところでございますが、また今、教育長よりパソコンの導入の件も出ましたので、私、1つ気づく点がございまして、私の小学校3年生になる娘が最近、授業の中で調べ物をインターネットによってしていたわけなんです、身近な山内町の大野地区にある天神さん、天満宮の調べ物をしておりまして、そういった地域の小さな物事までインターネット上、パソコンでは調べることができるというような、そういう理解をしていました。

それで私は、そういったものは人に聞いたり、先輩方に聞いたり、文化歴史などを勉強することも必要なんだということをそこで教えたわけなんですけれども、そういった意味で、今回は多額の、財源はもちろん合併特例債など厳しい採択の上で有効な財源確保をされたわけですが、せっかく導入されるわけですので、本当に子供たちにとってプラスになるようなパソコンのインターネット関係の授業を展開していただきたいと願っております。

また、先ほどの学習指導要領の採用ですが、小学校は2011年度、中学校は2012年度に完全実施となっていると聞いております。2009年度より移行期間、措置期間に入り、特に理数系の応用力に課題が指摘された国内外の学力調査結果を踏まえ、算数、数学、理科は大幅な授業時間、1割程度がふえるということですが、具体的に1週間における時間増ですとか、年間の時間増がどれくらいになるのかお示してください。お願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

数値につきましては、後刻お伝えすることにいたします。

今お話にありましたように、総合的な学習を3時間あったのを2時間に少なくしまして、それを低学年は国語科を中心に授業増、そして中学校で ちょっと正確な数値を、済みません、後でお話ししたいと思います、小学校低学年で増加、そして中学校で、お話のように理数の増加をしております。

詳しい数値は、また後で御報告いたします。済みません。

議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

生きる力や、先ほど来御説明いただいております総合学習など、単に学力の向上のみに重点を置かず、人としての心の成長などにも重きを置いた点は評価ができるゆとり教育でしたが、その上に完全週休2日制による授業時間の減少は明らかで、現在の学力低下はある程度最初から想定できたものではないかと私は思っているんですが、そして、今回のこれだけの授業時間増は教員の皆さんにとってかなりの負担増、ストレスになると思うのですが、その点をどのようにとらえていらっしゃいますか、お願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

冒頭のお話にありましたように、生きる力を育てなければいけないと、これは理念としては変わっていないわけでありますけれども、その過程において、いわゆる先ほどの調査にありましたB領域の活用する力というようなところあたりの指導がやっぱり落ちていて、あるいは理数的なところで心配な面があるということでの改善でありまして、その中で、片方には英語活動等もあるわけであります。

そういう意味では、先ほどお見せいたしました子供たちのああいう総合的な活動の中で基礎的なのを身につけていくと、先ほど質問の中にありましたパソコンでなくて、体験の中で身につけていくと、そういうところはやはり義務教育段階で非常に大事なところありますので、時間数の増加等につきましては、旧武雄市でなされておりました2学期制等においても授業時数の確保という一つの面があったわけでありまして、その面については対応できるものかというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

私は思うんですが、こういった国の大きな方向転換によるいろいろな現場指導時における戸惑いや、また教員の方々のストレスなどは、結果、最終的には生徒たちにいろいろな負担をかけ、また、支障が少なからず出てくるのではないかとという心配を多少なりともしております。そういったことに今後も御注意をいただきたいと思っております。

今し方ちょうど学校2学期制のお話も答弁の中にさせていただきましたので、具体的な事案として質問をしていくわけですが、過去、議会の場でも議論となっており、旧武雄市では既に導入されておりました今の学校2学期制でございます。

山内東西小学校と中学校の3校で新たに導入が決まったと聞いておりますが、それに対する導入までの経緯と、これは繰り返しになるかもしれませんが、2学期制になることでのメリット等をお教えいただきたいと思っております。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

2学期制につきましては、もう本当に議会におきましても、あるいは学校関係者の間、あるいは保護者の皆様の間でもさまざまに議論がなされてきたところでありまして、先般申し上げましたように、今年度までその2学期制の評価検討委員会、学校関係者以外の方まで入っていただいて検討会をしたわけでありまして、

そういう経過、8月、それから11月等の会議等の中におきましても、2学期制をしていることのメリットといいますが、話がなされたところでございます。これまでもプラス・マイナスいろんな面が出されてきたわけでありまして、やはり授業時間数の増加というのは今度の学習指導要領でも一つの方向としてあるわけでありまして、どうしても2学期制のほうが授業時間が少ないと、減ったという報告は今まで聞いたことがないわけでございます。多い場合は15時間から20時間と。そうしますと、中学校だけでも50時間ないし60時間ぐらいの差になってくると。これはなかなかカバーできない数字ではないかというふうにも思います。

始業式や終業式の部分、あるいはそのあたりでの指導、長期休業前の指導の時間、これは間違いなく要るわけでありまして、授業がカットされていたような時間というのが減るとというのが現実の授業時数として出てきております。そういう時間数のメリットが1つあるかと思えます。

それから2つ目は、夏休み前、冬休み前にやっぱりじっくり子供たちと向き合えると、これは非常に大きなことだと思っております。やはり休業期間中にいろんな問題行動が起こったりしがちでありますけれども、休み前に評価作業等に時間を割くことなく子供たちとじっくり向き合えると、これは非常に大事なことでありますし、有意義であるというふうに思っております。

それから、例えば、3学期の評価などを考えますと、非常に短期間で評価をしないといけないという面がございました。そういう意味では、じっくりと子供たちを見ることができるといえることがございます。

それから、校長先生方のお話を聞いて一番思いますのは、当然、行事の見直しとかするわけでありまして、学校教育全体を見直す契機になるということで改善が進むということが言われております。

いろんなメリット、あるいはマイナス面も片方にはあると思えます。ただ、これはあくまで手段であるということでありまして、目的はやはりそれぞれの学校、バランスのとれた子供たちの成長ということですので、いかに内容を充実させるかということにかかってこようかというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

メリット、デメリット等いろいろある中で、大きなデメリット等は私も感じない以上、導入に際しては、あとはもう子供たち、先生方の混乱やストレス等が最小限で抑えられるように期待するものです。

また具体的には、問題となるのは学校行事との兼ね合い等がかかわってくると思うんですが、山内西小学校においては既に運動会を春に開催しております。東小学校では通常どおり今まで秋に行われていたと思っております。秋の彼岸ごもりやそちらの兼ね合い、そしてまた春の運動会開催の場合、入学したての1年生の負担を心配する保護者の方の意見などがなかったか、また、その辺のクリアができたのか、その点についてお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

先ほど申しましたように、2学期制の場合、当然、行事等を改善していかないといけないわけでありまして、旧市内の学校におきましても、これまでさまざまな工夫がなされてきております。同じ校長会の中で情報交換したり、これまでの経験を生かしたことで、私のほうに特別に委員会として対応を必要とするようなことは、話はございませんでした。ですから、これまでの旧市内で取り組まれたこのノウハウといいますか、そこを生かして、そして、それを自分の学校なりに生かしていただいているものというふうに期待しております。

議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

それでは、次に進みますが、関連性があるんですけども、小学校1年生で、県の教育委員会が2005年より導入をしておりました少人数学級とチームティーチングの選択制についてでございます。

小学校3年生に拡充するよりも、不登校などがふえる中学校1年生に導入すべきであるとの方向性を打ち出されたようでございますが、今後の動向と武雄市としてのお考え、そして加えて、今までの小学校1、2年生での導入時の総括、それぞれの効果、メリットなどがわかればお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

小学校低学年の学習環境改善ということで名称がついておりますけれども、少人数学級が

チームティーチングかということで選択して導入するという制度があるわけでございます。新年度も数校あるわけでありますが、これも確かにメリット、デメリットがあるわけであり。チームティーチングの場合は、やはり1人の先生が主になって1人が教室内、子供たちを見て回られるという指導等が多いわけで、つまりいてる子供たちがいないか、あるいは基礎・基本の定着を図るという意味では非常に有効であろうかと思っております。

それから、低学年ですので、どうしても1時間じゅう座っておくというのが苦手な子もいるわけであり。そういう面での学習習慣とか生活習慣の徹底を図ると、こういう意味では40人近くの子供を1人じゃなくて2人で見られるということは非常に有効であると思っております。

それから、少人数学級に分けた場合でありますけれども、これは40人近くの子供を2学級に分けるわけでありますので、20人足らずの少人数になるわけであり。ですから、技能、実技の教科ですね、体育とか図工とか音楽とか、そういう場合は非常に指導がしやすいというのが言われております。また、使用頻度等も高くなってきますので、実技能力という面では向上が図られると。それから、人数が少ないので、ふだん接するのは一人一人の話をじっくり聞く時間が持てると、児童理解につながるということがあります。

ただ、どちらを選択するかというのは、やはり40人近くの子供たちの状況によって校長のほうで判断をしているということでございます。

ちょっと例えは悪いかわかりませんが、この制度がないときであっても少人数の学級はあったわけであり、1学級二十何人という学級はあったわけでありまして、その場合に、40人の学級と学習、生活いろいろ比べたときに、必ずしも絶対少ないほうがいいということばかりでもないわけでありまして、学習上、ある程度人数が必要だということもあるわけであり。そういう意味では、状況を見て校長のほうで選択して採用しているということでございます。

それから、中学校1年生のことが出ておりますが、これにつきましては、現在、数学と英語におきましてTTのほうで配置を進めているところでございます。恐らく新年度におきましても、そのことで可能であろうと考えております。

議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

小学校低学年における選択制について、るる御説明をいただいたわけでございます。

今後の対応としまして、中学生への導入を考えていただいているわけでございますが、それはちなみに中1ギャップとも呼ぶそうでございます。環境の激化から飛躍的にふえるという不登校の対策にも効果があるということですので、検討の余地があることではないかと私も思っております。

またもう1つ、これも県の教育委員会が示した新しい方針で、校長などの管理職を補佐する主幹教諭なるものが設置されるというものですが、武雄市との今後の対応などがあらわれればお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

お答えいたします。

主幹教諭については、全国的に配置が計画されているところでございます。

校長や教頭の職務を助けて公務を整理して児童・生徒の教育をつかさどるということで、授業も数時間はするという形でございます。ただ、これにつきましては、大体配置の基準がありまして、小学校では18学級以上、中学校にあっては15学級以上の規模あたりを対象とされているようでございます。

その該当する学校としては、市内では御船が丘小学校、武雄中学校が対象となる見込みという段階でございます。

議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

国の教育に対する方向転換や、また教育委員会のいろいろな施策等で、教育現場での子供たちの負担がないように、何度も繰り返しになりますが、そして、教員の皆さんのストレスがないような最小限度の転換であってほしいと願うものでございます。

同じ教育環境についてでございますが、食に関する質問のほうに移らせていただきます。

がばいよか武雄の食育推進計画を策定中であられますが、特に小・中学校児童に対する施策について御説明をお願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

松尾こども部長

松尾こども部長〔登壇〕

お答えいたします。

現在、食育推進計画につきましては策定中でございますが、間もなくまとまるということで、まだ案の段階でございますが、御説明を申し上げたいと思います。

食育推進計画は、まず、「楽しく！健康！おいしい野菜！ みんなで食育を始めよう！」というのをキャッチフレーズにいたしまして、武雄の特性を生かし体験を重視した計画を立てて食生活に不足しがちで身近にある野菜を中心に食育の視点から家庭を支援する取り組みを進めていくということにいたしております。

御質問の子供に関する食育の計画ということでございますが、実際の計画のプログラムで

ございますが、1つに、食育推進の施策の展開の中で、五感を使った食育体験プログラムと
いうのを計画いたしております。これは子供たちを対象にしております、6つの計画をこ
こにつくっております。

1つは、「野菜パワーで元気100%」つくって食べようおいしい野菜」ということで、
野菜をつくったり農業体験をしていただいて野菜等のありがたさ、そういうものを学んでい
ただくということにいたしております。

2つ目もこの農業体験でございますが、特にニンジンを使ったおやつとか、いろんな料理
をやっていこうということで計画をいたしております。

3つ目が「だご(だんご)を訪ねて食文化を知ろう」ということで、これは地域に残って
いますいろんな食事、食生活の食文化を再発見するということで計画をいたしております。

4つ目が「食から学ぶ、もったいないキャンプ」ということで、食物に感謝をして食事を
つくる力を身につけるため限られた食材でみずからメニューを考え最低限の料理をつくって
食べる生活を体験するという、これはキャンプを体験しながらそういう食べ物に感謝
をするということを学ぶことにいたしております。

それから、5つ目が「みんなでつくる楽しいやしや鍋」ということで、これは家庭を中心
とした食育を進めるために、いろんな料理法を学び、家庭が協力して料理をつくって家庭の
つながりをつくるということで計画をいたしております。

それから、6つ目が「ワンとしゃー」ということで、これはおわんとおかずでございます
けれども、器を使っているいろんな家庭だんらんの中で食事の楽しさを実感していただくとい
うことで計画をいたしております。

あともう1つ、「ライフステージにおける食育の推進」というのを考えておまして、こ
こでは妊娠期から最後の高齢期まで5段階に分けておまして、この中で子供については乳
幼児、それから学童、思春期、青年、こういうステージを設けまして、その中でいろんな体
験をしていただくということで食育を進めていきたいというふうに考えております。

議長(杉原豊喜君)

2番浦議員

2番(浦 泰孝君)〔登壇〕

るる御説明ありがとうございました。

先ほど御説明いただいた資料の中ほどに、各学校や保育所等における数値目標等も具体的
に上げていただいております。そういった目標設定なども大変好ましいものだとも私も感じ
ております。

御説明の中の農業体験学習事業という点では、既に山内の山内保育園さんが1950年の開設
以来、地産地消を取り入れておられると聞き及んでおります。昭和50年代には畑を借り、種
まきから収穫まで園児に体験させておられる記事が新聞にも掲載されておりました。子供た

ちも自分自身が手塩にかけて育てた作物には愛着もわくでしょうし、おのずと好き嫌いも減っていると私も思います。これこそが生きた食育の実践だと感心をいたしました。

また、山内町においては、校長先生や栄養教諭の先生を中心に食育部会を立ち上げていただき、学校給食に対しても、きめ細やかな指導をいただいております。月に1度の食の日には、米以外のほぼすべての食材に地元産品を使用され、具体的に生産者の方の紹介もされているようです。唯一の米についても、後に触れますが、施設の都合によりパン工場へ委託をしておられるだけで、もちろん県産品に厳選をされておられます。

ただ、これだけ食育に力を注いでいただいているからこそその問題点と申しますか、課題もあるように思います。1つに、原油価格高騰による材料の値上がりです。産品にこだわらず安価な食材を使用すれば対応はできるでしょうが、さきで問題となった中国産食材の事件も含めまして、本当に安全でおいしいものを子供たちに提供すべく頭を悩まされております。現実にはこのままだと、さきの質問でも答弁の中にもありましたが、給食費の値上げ等を検討していただかなければならない可能性も出てくるでしょうし、それについての市としての所見をお聞かせ願いたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

学校給食にかかわってでございますが、先般の中国産食品のギョーザ等につきましては、1月31日以来対応してまいりまして、学校栄養職員の方に打ち合わせ会等に来ていただいて対応してきたところでございます。昨日申しましたように、使用してはいないわけでありませぬけれども、その後もギョーザ等の使用についてはメニューから外すというような措置もしてきております。

それから、値上げ等につきましては現在のところ考えておりません。各町、あるいは各学校給食運営委員会でも、現在のところは方向として示すようにはなっておりません。

議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

もう1つの問題点と申しますか、課題でございますが、地域医療の質問等でもかなり出てきた問題でございますが、行革のあおりで、山内の給食センターに限ってのことでございますが、人件費の削減から調理師の方が減られたと聞き及んでおりますが、食に力を入れられ、食材にも厳選されたものを使用される場合は、それだけ下準備等にも手もかかるということでありませぬ。また、少なからずアレルギー等を持つ子供に対する対応についても、よりきめ細やかな対応を迫られるケースもあるわけでございます。

一昨日より続いてまいりました一般質問であります。やはりぶつかる壁は逼迫した財政

難であり、佐賀県の今年度の当初予算についても18年ぶりに4,000億円を下回ったとのこと、県のほうも聖域なしの見直しで90事業に及ぶ補助金の廃止、もしくは休止をしているとのこと。そのため、広く福祉や教育に関するものも少ないようです。この武雄市についても食育に関することも、私の私見かもしれませんが、行革とは、ややもすれば食育というものは対立軸に当たるかもしれません。しかしながら、未来を担う大事な子供たちのためにできる限りの予算的維持向上をお願いするものでございますが、この件に関して意見をお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

私のほうからお答えをいたします。

恐らく給食センターにおける臨時の調理員の方の雇用の問題についてのお尋ねかなというふうにちょっと思いましたので、私のほうからお話をさせていただきますけれど、これは北方の給食センター、それから山内の給食センター両方にかかわることですけれども、20年度の新しい体制のことで、これは行革に絡んでの話ですが、給食センターのほうに市の正規の職員を配置するというようなことが人事のほうからございまして、それにあわせて現在配置しております臨時の調理員の方、これについて縮小するというようなことで一定整理をいたしましたので、調理員の方に対しまして来年度以降の取り扱いについてはお話をいたしましたところでございます。

そういったことで、子供たちの健康等に関することについては、当然、給食の調理現場のほうで十分対応をいたしていきたいというふうに思っておりますし、また、先ほど御紹介いただきましたアレルギー対応についても、これはほかの学校でもそうですけれども、センターにおいても十分配慮して取り組むということで考えております。ですから、今回の件につきましては、行革と軸を対立するというようなことではございません。

議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

わかりました。

そしたら、食の教育環境の最後の質問になりますが、山内の給食センターが幾度となく改築等を重ねていただき、衛生面にも十分注意を払い調理をしていただいておりますが、築三十数年の経過とともに厨房機器などの故障も多く、支障が出てきていると聞いております。

今、山内で採用しておられますセンター方式、旧武雄市の自校方式との兼ね合い、これは先ほどからお尋ねしております行革の方面から見たコストの問題、そして、受ける側の児童にとっての食育の観点から見たメリットなど両方の面があると思いますが、今後の対応につ

いて現時点の段階での所見をお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

古賀教育部長〔登壇〕

お答えいたします。

山内の給食センターですけれども、昭和52年につくられた建物でございます。施設がもう老朽化いたしております、建物、それから中の設備等も更新を検討するべき時期に来ているといような認識は持っております。給食センターの内容につきましては、行革プランをつくっておりますが、この中では22年度、山内、それから北方の給食センターの民営化ということが掲げられております。

現在、武雄市における学校給食の運営の方式というのは、旧武雄市内が自校調理方式になっております。これは御存じのとおり、平成18年度から民営化に移行してまいりまして、平成13年度から全校民営化という形になっております。

旧山内町と旧北方町にございました給食センターが、新市になりまして、そのまま直営という形で残っております、今現在、武雄市の中には2つの調理方式があるわけでございます。これを学校調理のあり方をどんなふう to 今後持っていくのか、2つの方式を併用させるのか、いずれかの方式で統一をするのか、そういったことが今後の検討課題というようことになってまいります。

いずれにいたしましても、山内の給食センターの場合は特に施設の改築計画というようこともございますので、今後、民営化の具体的な検討を進める中で、施設のことも含めまして今後検討を進めていくということで考えております。

議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

いずれにせよ、子供たちの未来のために、よりよき選択のほうをよろしく願ひいたします。

それでは、次の質問に移らせていただきます。

2番目の項目の環境問題についての質問でございます。

これは12月議会にて上程され、継続審査となっております景観条例に限定いたしまして質問をさせていただきます。

午前中に前田議員のほうから質問等もございましたので、私は山内町の重点地区に限って質問をさせていただきます。

昨日の同僚議員の質問に対しての市長の答弁の中にもありました、山内町の観光資源としての潜在能力の源とも言える黒髪山周辺であります。ほか3地区とともに最重点地区として

上げられたこの地区は、肥前耶馬溪と表現しても過言ではない、春の桜、秋の紅葉を初め、四季折々の美しさを私たちに見せてくれます。今後、武雄市をさらなる発展へと導く観光資源としての共有財産として、現在の姿、景観を残すべきものであります。具体的な建物などの色彩の規制そのほかは今後の景観計画素案に表記されるものと思われませんが、タイムスケジュール等を含め、今後についてをお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

景観条例につきましては、ただいま継続審議ということで、まだ決定は受けていないわけですが、これが可決されますと、すぐ景観審議会、これを立ち上げたいと考えております。

今現在、景観計画を議員さんたちにもお示しいたしておりますが、あれは武雄のがばい景観を考える会がたたき台としてつくった計画でございます。これを景観審議会に諮りながら正式に景観計画を作成すると。その後、その景観計画を市民の方々に周知をしまして告示をします。それ以降が正式な景観のスタートということになります。

議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

景観条例についてでございますが、また、以前の一般質問の際、開発計画を含めた動向を見守っていただきたい旨を伝えました祐徳温泉さんの足湯の件でございますが、武雄市への申請など現時点で把握しておられるものがあればお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

松尾まちづくり部長〔登壇〕

祐徳温泉につきましては、開発行為の申請というのは出ておりません。もしもあそこが1万平米を超えるということになれば、申請を出してもらわにゃいかんというところでございます。

議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

もちろん祐徳温泉さんは優良、健全な企業であることはもう私も百も承知でございますが、黒髪山の現在の自然を損ねない、しかも、地元の住民の方々とも友好的な共存関係が結べるような施設の開発を望むということで、景観条例等もしっかり検討していただきたいと思っております。

最後の質問になりますが、新幹線についてであります。

昨年暮れに着工に向けて確実な発展があったわけであり、その陰には佐賀県選出の自民系の国会議員の方々はもちろん、知事、石丸県議会議長、稲富県議を初めとする県議員の方々など本当に多くの人々の熱い情熱と尽力のたまもであります。

一昨日の同僚議員の質問の際にもありましたが、事業費における県、武雄市の負担と、それに対する効果をまずお示ください。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

武雄市の負担につきまして一昨日お示しをしたとおりでございます、最終的には全国新幹線鉄道整備法によりまして、この中では国が3分の2、それから、残りを関係の自治体が3分の1ということになっております。そういうことで、県の負担のうちに市町村が幾ら負担をするのか、これについてはその法の中で県のほうから市のほうに打診がありまして、協議をして、最終的に県議会のほうで決定をされるということでございます。

一昨日申し上げましたように、実際工事をする区間に対して工事費が幾らかかるかということで、例えば、トンネルがあったりとか、あるいは武雄市みたいに駅の西側は市街地であったりとかいうことで、場所によって工事費が変わってきますので、最終的にはその工事が決定してから負担割合を決めていくということになります。

そういうことで、今現在うちのほうで試算をしているのは、単純に距離で案分すれば幾らになるかということで、これについていけば、武雄市が約3億円程度ということで、あと交付税算入がございますので、それを引けば約1億7,000万円程度ということで試算しております。

それから、費用対効果でございますが、これは国のほうで出しておられまして、昨年12月の三者合意の段階で後出しておられます。この費用対効果については、2つのとり方がございまして、例えば、利用者の便益、それからJRの収益の効果、そこら辺を出した直接便益といいますか、それが1.74ございます。それから、地域の消費額の増加、設備投資、人口増、ビジネスチャンス、そこら辺を勘案した総合的な効果が1.95というふうに数字が出ているようでございます。

議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

なかなか今、現時点での費用対効果というのは難しい表現の方法かもしれませんが、また同じく庁舎内で営業部内に設置されました、わたしたちの新幹線課の現時点での具体的な動きや、2月20日に行われました長崎、佐賀の沿線5市でのサミットを交えての事業展開等が

ありましたら御説明をお願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

新幹線につきましては、恐らく3月中には国土交通省の認可が出るだろうということで期待をしておりますが、2月20日に、さっき言いましたように、武雄、嬉野、それから長崎県内の3市の首長の中で今後沿線の活性化のために手を組んでいきましょうということで、今後具体的に事務的レベルでの調整等を行っていききたいというふうに考えています。

それからもう1つは、市内の中で産官学挙げて協議会をつくって、武雄市内でどういうふうに新幹線を活用していくかということで、1回準備会をしておりますので、3月中にもう1回準備会をして、4月にその立ち上げを行っていききたいというふうに考えています。

議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

新幹線については、けさの新聞にも嬉野市のほうの状況で、駅周辺の整備構想ということで一般会計のほうにも予算計上化がされているという記事が掲載されておりました。武雄市としても本当に前向きにいろんな誘致のツールとしての活用、利用を切にお願いするものでございます。

最後に、市長の新幹線に対する所見をお伺いいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

新幹線は2つの大きな目的があるというふうに思っております。1つは、まず新幹線ができることによって、今まで武雄、あるいは西九州に來れなかった、なかなか來づらかった皆さんたち、特に関西圏の2,000万人の皆さんたちをターゲットとしてこちらに引き込むと。そしてもう1つが、新幹線を使って関西方面に我々が地域の足の延長として出ていくという側面、これが第1。それと第2が、私はこれは動脈だというふうに思っております。体でいうと動脈だと。今までは、きのう議会でも御答弁いたしましたけれども、新幹線という名前が悪いと。これは長崎街道か、もう新長崎幹線という扱いだと思うんですね。私はそれを考えると、昔、銀バス、あるいは赤バス、私は写真でしか知りません。親からしか聞いていませんけど、物すごくにぎわいがあったと。そういう位置づけが私は今回の新幹線になるというふうに思っております。時代の流れに応じて公共交通機関がさまざま変わっていると。特に、これだけガソリン代が高騰すると、ますます公共交通機関、地域の足としての役割が高まってくるというふうに思っておりますので、私は動脈、武雄で切ってはいけないというふ

うに思っておりますので、積極的に推進に向かって図ってまいりたいというふうに思っております。

新幹線については、本当に地域の足として、観光、あるいは産業の一つの起爆剤、てことして使っていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

2 番浦議員

2 番（浦 泰孝君）〔登壇〕

新幹線について御答弁いただきました。

新幹線を初めとする行政の事業に対する最終的な執行の判断が難しいところは、100%のコンセンサスと申しますが、合意をすべていただくことはまずない中での決断を迫られることであると私はいつも思っております。それは私たち議員にとってもしかりでございます。

例えば、極端な例でありますけれども、ある事業が商工業者にとってはプラスであるものも、もしかすると農業を営まれる方にはマイナスの面もある事業があるかもしれません。この新幹線についても、地域的な受益の差による問題が最大の論点だったと思います。

また、これを仮に横の軸としますと、縦の軸には現在と未来の時間の軸があり、少なくとも私は未来の子供たちのために前向きな軸の推進の旗を振りたいと思っている人間であります。そして、する以上、単なる通過駅、沿線の自治体で終わることのないよう、しっかりしたビジョンのもと、ツールとしての新幹線の最大限の活用をしていただきたいことを切に願います。

また、最後になりますが、くだんの「せんたく」につきましても、議員連盟の方は思惑等がそれぞれにあられ何とも言えませんが、地域、生活者を基点とすることを大前提に国の政治を選択する集団と掲げられておりますので、先日から大きな議論となっております地域医療の問題や道路特定財源の今後など、国のこれまでの姿勢を問いたす場として素直に受けとめ、私は期待をしております。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。